



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

Report (写真で振り返る平川市展 (尾上町編))

1 講演概要

- (1) 日時
2026年5月2日(土) 13:30~15:00
- (2) 場所
平川市図書交流施設(よみまる)
- (3) 講演内容
弘南線、そして猿賀さまと共に ~尾上町の軌跡~
- (4) 講師
青森県 地域生活文化課 総括主幹 中園 裕 様
- (5) 主催者
平川市 (平川市市制施行20周年記念事業 記念講演会)



図1 盛美園

2 目的

旧尾上町の歴史や文化、地域に受け継がれてきた暮らしの歩みを学び直し、弘南鉄道、猿賀神社、温泉、商店街、生垣、蔵など地域固有の資源や魅力を再認識することで、尾上地域の存在価値と将来性について理解を深めることである。あわせて、先人が築いてきた地域の財産を今後どのように保存・活用し、平川市全体の地域振興や持続可能なまちづくりにつなげていくべきかを考察し、今後の市政運営の参考とすることを目的とする。

3 内容(要約)

(0) はじめに

本講演は、平川市市制施行20周年を記念し、旧平賀町、旧碓ヶ関村、旧尾上町の歴史的特色を振り返りながら、とりわけ尾上地域が弘南鉄道、猿賀神社、学校、温泉、商店街、庭園・生垣・蔵などと共に歩んできた歴史を再確認することを目的として開催された。講師は、青森県内各地の歴史や古写真の調査・普及に携わっており、当日は多数の写真資料を用いながら、地域の記憶を後世に残すことの重要性を語った。

(1) 平川市を構成した3町村

① 平賀町の特徴

平川市を構成する地域の一つとして、旧平賀町の歴史が紹介された。平賀町は、**弘南鉄道によって大きく発展した町**であり、平賀駅周辺には商店街が形成され、弘南鉄道の本社も平賀駅に置かれた。特に、かつて平賀駅に存在した地下スーパー「駅の穴」は、青森県内でも珍しい駅地下の商業施設であり、通学する高校生や地域住民に親しまれた施設として紹介された。

また、平賀町の発展には柏木農学校、後の**柏木農業高校の存在も大きかった**。戦前から女性も農業教育を受けていたことは全国的にも珍しく、地域が教育において先進的な姿勢を持っていたことが強調された。駅前には学校があった時代には、多くの若者が町を歩き、地域に活気をもたらしていたという。

さらに、平賀町は**温泉の町**でもあった。唐竹温泉、大坊温泉、新屋温泉、温川温泉、切明温泉など、掘削による新興温泉と天然温泉の双方を有し、地域の生活や交流の場として機能してきた。特に大坊温泉は、公民館機能を併せ持つ温泉施設として、地域自治や住民交流の拠点となった点が紹介された。

② 碓ヶ関村の温泉文化

旧碓ヶ関村について、**温泉を中心**とした地域の歴史が語られた。碓ヶ関温泉は、河川敷に湧く温泉として知られ、かつては陸軍第八師団の転地療養所としても利用された。日露戦争などで負傷した兵士の保養地として、地域の旅館が重要な役割を果たしたことが紹介された。戦後には、温泉を活用した洗濯場や温泉プールが整備された。温泉洗濯場は、冬季に冷たい水を使わずに洗濯できる貴重な場であり、地域の女性たちにとって生活を支える重要な施設であった。また、温泉プールは県内外から多くの子どもたちが訪れる人気施設で、地域住民にとっては入浴施設としても利用されたという。しかし、昭和41年の大洪水により温泉プールは大きな被害を受け、復旧が困難となった。その後、温泉会館が整備され、入浴、食堂、地域集会などを兼ねた住民の憩いの場となった。湯の沢温泉、秋元温泉、あいのり温泉などの紹介もあり、特に秋元温泉は江戸時代以来の湯治場として名高かったが、後継者不足等により閉じられたことが惜しまれた。また、現在残る碓ヶ関駅については、奥羽本線に残る貴重な古い駅舎として保存の必要性が述べられた。



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

Report (写真で振り返る平川市展 (尾上町編))

(2) 15村が合併してできた尾上町

① 尾上町の成り立ち

講演の中心は、旧尾上町の歴史であった。尾上地域は、明治22年の町村制施行により、尾上村、金田村、猿賀村などが成立し、その後の合併を経て尾上町となった。講師は、現在の「大字(おおあざ)」の多くが江戸時代の村に由来しており、**小さな村々が合併を重ねることで現在の地域が形づくられた**と説明した。津軽地域には小さな村が多く存在したが、それは水田や農業資源が豊かで、**それぞれの集落が独立した生活圏を形成できたこと**の表れでもあるとされた。一方で、水争いや土地への強い意識も背景にあり、地域の個性が細かく分かれていたことも紹介された。

② 猿賀神社と猿賀村

猿賀地域については、**猿賀神社を中心に発展してきた歴史**が紹介された。講師は、版画家・今純三が描いた猿賀神社の精密な版画を紹介し、当時の猿賀神社、社務所、鳥居、猿賀小学校、鏡ヶ池周辺の様子を解説した。猿賀小学校がかつて神社境内にあったことは、多くの参加者にとって新鮮な内容であった。戦前の猿賀神社では、戦勝祈願や武運長久の祈願も行われており、神社が時代状況に応じて**地域社会の精神的支柱**となっていたことが示された。また、青年団や国民学校の写真を通じて、戦時下の若者や女性たちの姿が紹介された。

③ 金田小学校・尾上中学校・猿賀中学校の記憶

金田地域については、金田尋常高等小学校、後の**金田小学校**の写真が多数紹介された。戦前の学校写真では、1年生の児童や6年生の児童が写され、6年生の中には幼い弟妹を背負って登校している児童も見られた。これは当時の農村生活において、子どもも家族労働や子守を担っていたことを示す貴重な記録である。また、農繁期には小学校に季節託児所が設けられ、田植えや稲刈りの時期に農家の子どもたちを預かっていたことが紹介された。これは現在の保育所に通じる地域的な子育て支援の原型ともいえる。戦後には新制中学校が発足し、**尾上中学校**が金田小学校に併設された。昭和22年の尾上中学校1年生の写真、昭和25年頃の同窓会写真などを通じて、戦後の教育制度の変化と、物資不足の中で学校を支えた地域の姿が語られた。猿賀中学校については、尾上中学校への統合により失われた学校として取り上げられた。八幡宮隣に建てられた木造校舎や、昭和30年代の生徒写真、講堂での集合写真が紹介され、失われた学校の記憶を残すことの大切さが強調された。



図2 猿賀神社



図3 平川市立金田小学校



図4 平川市立尾上中学校

(3) 弘南線と猿賀さま

① 猿賀神社と地域の祭り

猿賀神社は、尾上地域のみならず津軽一円から信仰を集める神社であり、講演では祭りや信仰行事の多様な姿が紹介された。旧暦の正月行事である七日堂祭、柳からみ神事、鏡ヶ池で行われる占い、田植え祭、十五夜大祭などが取り上げられた。特に田植え祭は、水田農業と深く結びついた行事であり、豊作を祈願する農耕儀礼としての意味が説明された。猿賀神社の十五夜大祭には、尾上地域だけでなく、田舎館、黒石、



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

Report (写真で振り返る平川市展 (尾上町編))

弘前など周辺地域からも多くの参拝者が訪れていた。御幣を担いで参拝する様子や、子どもたちも参加していた写真が紹介され、猿賀神社が広域的な信仰の中心であったことが示された。また、弘南鉄道も猿賀神社を大切にしており、交通安全祈願などを猿賀神社で行っていた。弘南鉄道の職員が津軽尾上駅から猿賀神社へ向かう写真は、鉄道と神社が地域の象徴として結びついてきたことを物語るものであった。

② 弘南鉄道と津軽尾上駅

弘南鉄道は、尾上地域の発展に欠かせない存在として位置づけられた。昭和52年、弘南鉄道50周年とあすなる国体の時期に合わせ、津軽尾上駅は猿賀神社の拝殿を思わせるデザインに改築された。これは、猿賀神社のある町の玄関口として駅を整備しようとした当時の経営判断によるものであり、地域性を反映した貴重な駅舎である。

駅にはかつて「ショッピングおのえ」という商業施設も併設され、地域住民や利用者に親しまれていた。

講師は、現在の津軽尾上駅について、古びた駅ではなく、昭和の雰囲気を残す貴重な観光資源であると強調した。

紙の切符、改札口、運賃表、待合室のストープなどは、地元住民にとっては当たり前の風景であっても、県外の若者や鉄道ファンにとっては大きな魅力である。

駅を守るためには、まず地域住民が弘南鉄道を利用することが重要であると述べられた。

③ 猿賀公園の整備と観光

尾上町は、猿賀神社への信仰を基盤に、観光の町として発展を目指した。その象徴が猿賀公園の整備である。見晴ヶ池の護岸整備、ボート遊覧、恵比須島周辺の整備などが行われ、神社の鏡ヶ池が信仰の池であるのに対し、見晴ヶ池は公園的・観光的な池として位置づけられた。

昭和40年代には猿賀ガーデンラインも整備され、猿賀神社と猿賀公園へのアクセス向上が図られた。

こうした整備により、猿賀神社周辺は信仰と観光の両面を持つ地域資源として発展した。

(4) 尾上町時代の面影

① 失われた尾上町の風景

講演後半では、現在は失われた尾上町の風景が多数紹介された。取り上げられた主なものは次のとおりである。

- ・旧尾上町役場
- ・改築前の津軽尾上駅
- ・寿正宗の酒蔵
- ・西谷家本家の大きな屋敷
- ・猿賀の大ケヤキ
- ・馬力大会の風景
- ・仮装大会
- ・旧商店街の店舗群
- ・映画『青い山脈』のロケ地となった三浦医院の洋館

これらの写真を通じて、講師は「ものは失われても、写真と思い出は残すことができる」と述べ、地域の記憶を記録することの重要性を強調した。



図5 津軽尾上駅



図6 ショッピングおのえ



図7 弘南鉄道 (津軽尾上駅)



図8 猿賀公園



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

Report (写真で振り返る平川市展 (尾上町編))

②尾上商店街の記憶

旧尾上町の中心商店街については、昭和末期頃の写真をもとに、駅前から商店街にかけての様子が紹介された。札幌どさんこラーメン、カメラ店、美容院、設備店、西谷菓子店、大十食堂、新し屋、田辺酒店、花のやなど、かつて地域住民に親しまれた店舗が次々と紹介された。講師は、郊外型大型店やコンビニの時代となり、中心商店街の姿は大きく変わったが、かつての商店街は地域の生活を支える重要な場であったと振り返った。

(5) 尾上地域の宝と今後への提言

講演の終盤では、尾上地域に残された宝として、次の資源が挙げられた。

① 津軽尾上駅 (図2参照)

猿賀神社の玄関口として整備された津軽尾上駅は、地域の象徴であり、昭和の鉄道文化を残す貴重な資源である。保存のためには、地域住民が実際に鉄道を利用し、日常的に支えることが必要である。

② 温泉・銭湯 (図9参照)

大和温泉など、地域に残る温泉・銭湯は、外部から見ても価値のある昭和的な地域資源である。温泉は「あって当たり前」ではなく、利用者が減れば失われる可能性があるため、地域住民が利用して守ることが重要である。

③ 大衆食堂 (図10参照)

めん処 味の香園などの大衆食堂は、現在では全国的にも貴重な存在となっている。多様なメニューを手頃な価格で提供する大衆食堂は、地域の生活文化そのものであり、地元住民が利用し続けることで守るべき資源である。

④ 生垣・庭園 (図11参照)

尾上地域は、かつて「生垣の町」として知られた。現在は維持管理の難しさから減少傾向にあるが、猿賀ガーデンライン周辺を中心に残る生垣や庭園は、地域らしさを示す重要な景観資源である。

⑤ 金屋地区などの蔵 (図12参照)

金屋地区をはじめ、尾上地域には立派な蔵が多く残されている。蔵は、地域の豊かさや家々の努力を示すものであり、歴史資料や生活道具を守る役割も果たしてきた。蔵めぐりなどの活用可能性がある一方、個人宅であることへの配慮が不可欠であり、地域住民主体の慎重な取り組みが求められる。

⑥ 地域住民の記憶

講師が最も強調したのは、地域の最大の宝は、建物や景観だけでなく、そこに暮らしてきた人々の記憶であるという点であった。古い写真、家族写真、結婚式の写真、学校写真、商店街の写真などは、地域の歴史を後世に伝える貴重な資料である。不要と思われる写真であっても、地域史の視点からは大きな価値を持つ可能性があるため、捨てずに保存し、必要に応じて寄贈・共有することが呼びかけられた。



図9 尾上商店街 (右に大和温泉あり)



図10 めん処 味の広園



図11 生垣 (八幡崎地区)



図12 蔵 (金屋地区)



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



■ Report (写真で振り返る平川市展 (尾上町編))

市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

(6) 講演を通じて確認された意義

本講演を通じて、尾上地域の歴史は、単なる行政区域の変遷ではなく、弘南鉄道、猿賀神社、学校、温泉、商店街、農業、祭り、庭園、蔵、そして住民の生活記憶が重なり合って形づくられてきたことが確認された。特に、講師は写真資料を用いることで、参加者に自らの若い頃や家族、地域の記憶を思い起こさせた。これは、地域史を単なる知識として学ぶのではなく、自分自身の人生と結びつけて再認識する機会となった。また、地域資源を守るためには、行政任せにするのではなく、住民自身が価値に気づき、利用し、語り継ぎ、必要に応じて行政の後押しを受けることが重要であるとの提言がなされた。

(7) まとめ

本講演は、平川市市制施行20周年を機に、旧尾上町を中心とする地域の歩みを振り返り、現在に残る資源と失われた風景の双方を見つめ直す貴重な機会となった。

尾上地域は、弘南鉄道と津軽尾上駅、猿賀神社と猿賀公園、金田小学校や尾上中学校、温泉や大衆食堂、生垣や蔵、そして地域住民の思い出によって形づくられてきた。これらは、地域の誇りであると同時に、後世へ引き継ぐべき財産である。

(8) 所感

今回の講演では、古写真を通じて地域の歴史が具体的に語られたため、参加者にとって非常に身近で実感を伴う内容となった。特に、失われた建物や商店街、学校、祭りの風景は、単なる懐古ではなく、現在残されているものをどう守るかを考える出発点として示された。

地域の歴史は、行政資料や年表だけでは十分に伝わらない。家庭に眠る写真、地域住民の記憶、学校や神社、商店街での体験が重なって初めて、地域の本当の姿が見えてくる。本講演は、そのことを改めて確認させるものであった。

今後は、古写真や聞き取り記録の収集、津軽尾上駅や猿賀神社周辺の歴史資源の活用、生垣・蔵・大衆食堂など生活文化の保存に向けて、住民主体の取り組みを進めることが期待される。

以上



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

Report (南部家の本城・聖寿寺館調査の最前線)

平川市への政策提言

1 提言の目的

本提言は、平川市市制20周年記念公園の内容を踏まえ、旧尾上町を中心とした地域資源の価値を再評価し、今後の地域振興・持続可能なまちづくりに資する具体的な方向性を示すものである。

2 基本的な視点

講演から導かれる重要な視点は以下の通りである。

- ・地域資源は「当たり前ではなく失われ得るもの」である
- ・行政主導だけでなく「住民主体」が不可欠である
- ・外部評価（観光・文化価値）と内部価値（生活・記憶）の両方を守る必要がある
- ・ハード（建物）とソフト（記憶・文化）の両方を守る必要がある

3 重点提言

(1) 弘南鉄道および津軽尾上駅の維持・活用

課題：利用者減少による存続リスク、資産価値の過小評価

- 提言：① 市民利用促進策（通学・通勤支援、乗車キャンペーン）の実施
② 「昭和レトロ駅」としての観光資源化
③ 鉄道ファン・若年層向け情報発信強化（写真・SNS活用）
④ 駅舎保存に関する文化財的評価の検討

(2) 温泉資源の保全と地域利用促進

課題：利用減少・維持費増大・廃業リスク

- 提言：① 地元住民の利用促進（入浴補助・回数券制度）
② 「地域の銭湯文化」としての再評価
③ 昭和風景としての観光資源化
④ 高齢者福祉・健康増進との連携

(3) 大衆食堂等生活文化の保護

課題：後継者不足・過度な観光化による負担

- 提言：① 「生活文化資産」としての位置付け
② 過度な集客を避けた持続型PR（地元優先）
③ 後継者支援制度の検討

(4) 生垣・庭園景観の維持

課題：維持管理負担の増大、景観の衰退

- 提言：① 生垣維持への補助制度創設
② 「生垣のまち」ブランドの再構築
③ 散策ルート整備とガイド事業の促進



平川市議会議員

葛西はやと

みんなが笑って暮らせる社会にしたい！



市政報告はこちらを
ご参照下さい ▶

■ Report (南部家の本城・聖寿寺館調査の最前線)

平川市への政策提言 (つづき)

(5) 蔵の活用と地域回遊の創出

課題：認知不足、アクセスの弱さ、私有財産との調整

- 提言：① 蔵めぐりルートの整備
② 小規模イベント（公開日設定など）の実施
③ 交通アクセスの改善（循環交通等の検討）
④ 所有者との協働体制構築

(6) 古写真・記憶のアーカイブ化

課題：写真・資料の散逸、記憶の消失

- 提言：① 市民参加型デジタルアーカイブ事業の創設
② 写真・映像・証言の収集と公開
③ 学校教育・地域学習への活用

4 推進体制に関する提言

- (1) 行政単位ではなく「住民主体＋行政支援」モデルの確立
- (2) 地域団体・商工関係者、若者の参画促進
- (3) 小規模でも実現可能なプロジェクトの積み上げ
- (4) 成功事例の共有と横展開

5 おわりに

尾上地域の価値は、単なる歴史資産ではなく、「生活の中で培われた文化」と「人々の記憶」にある。それらを未来へつなぐためには、行政施策だけでなく、市民一人ひとりが主体的に関わり、「使い続けること」「語り継ぐこと」が不可欠である。

本提言が、平川市における持続可能な地域づくりの一助となることを期待する。

以上